巻頭言

持続可能な社会保障制度と地域医療構想は何のためか

新潟県医師会
理事　鈴　木　榮　一

“地域医療構想”という言葉を初めて聞いたのは、まだ新潟大学在職中の頃でした。地域医療構想アドバイザーに指名され、厚生労働省の説明会やワークショップ等に参加し、構想策定の仕組みを学びました。何となく医療再編なのかなとは思っていましたが、新潟県保健医療推進協議会の専門委員会（地域医療構想策定部会）として、新潟県地域医療構想の策定に参画しました。地域医療構想の仕組みはある程度理解したものの、その意義についてはよくわかっていない点もありましたが、平成29年３月に県の構想を公表する際には、医療資源の乏しい新潟県では、同じ構想区域でも医療提供体制に地域により差のあることを主張し、書き込んでもらいました。

大学病院長終了後、１年間大学勤務が残っていたので、医療についてもう少し勉強しようと思い（タイトルに惹かれて？）、権丈善一先生の「ちょっと気になる医療と介護」「ちょっと気になる政策思想－社会保障と関わる経済学の系譜」、二木立先生の「医療経済・政策学の探究」等を読みました。以前から“社会保障と税の一体改革”という言葉は、報道等でよく目にしていたのですが、当時は何のことなのかよく理解できていませんでした（今も本当のところはまだ理解できていないのかもしれません）。国の資料等で、年金、医療、介護（福祉その他）といった社会保障給付費が、急激な高齢化に伴ってものすごい勢いで増加していくグラフはたびたび目にしていましたが、何となく他人事のような気がしていました。

令和２年４月から、魚沼基幹病院長として魚沼で生活し、あらためて魚沼の医療再編は、まさに地域医療構想を先取りしたものであるということを実感しました。魚沼で、医療機能の役割分担と連携の重要性を再確認しました。

昨年（令和６年）３月から、2040年を見据えた「新たな地域医療構想に関する検討会」が矢継ぎ早に開催され、議論されている内容を見ながら、あらためて社会保障と地域医療構想の意義を考えてみるべく、権丈先生の「医療介護の一体改革と財政」「ちょっと気になる社会保障 V3」「もっと気になる社会保障」、香取照幸氏の「教養としての社会保障」といった本を手にしました。

令和６年12月18日付けで検討会の取りまとめが公表され、“新たな地域医療構想”は、入院機能、救急機能だけではなく、外来機能や在宅医療、さらに介護や福祉との連携といった、より医療を受ける側の立場に立ったものになることを知りました。本年７月からは、「地域医療構想及び医療計画等に関する検討会」が開始されています。

まだまだ勉強不足の感は否めませんが、社会保障制度を充実、継続させることは、我が国にとって不可欠であり、そのためにも“新たな地域医療構想”が必要なんだと考えるようになっています。幸い（？）、地域医療構想アドバイザーに再度指名いただきましたので、国のガイドラインが出てからそれに沿って作成するのではなく、県内各地域の医療事情を検討し、地域の医療資源の差を反映して、“だれでもどこに住んでも・・・”が実現できるような“新たな地域医療構想”が策定されることを目指して、もう少し勉強してみたいと思います。

県医師会会員の皆様からの、忌憚のないご意見をお願いします。